



親子でなにわ新発見!

おとなと子どもがともに楽しめる講座やイベント、施設を体験レポートします。

今回ご紹介するのは「咲くやこの花館」です。

春はここから...!の巻

今回おじゃましたのは、咲くやこの花館です。なにわのおでかけ定番施設ですが、じっくり見るにはフラワーツアーに参加するのが一番。館内に入り、案内所前で待つとほどなくガイドを担当してくれる“アテンダント”が登場、ツアーが始まります。この回の参加者は15人ほどでしたが、全員が説明を聞き取ることができるように1人ずつに受信機が配られます。いよいよ展示ゾーンへ。ここは、植物が生育する気候によって展示室が分かれています。まずは熱帯のコーナーへ。『オオオニバス』は大きな葉に針のような刺があります。子どもが乗れる大きさになるものもあるとか。館内のレストランではこのオオオニバスが食べられるということですが、どんな料理になっているのかは楽しみ。乾燥地のコーナーでは、環境に適応するための工夫をしているものや、ちょっと植物に見えないようなものもあります。「星の王子様」にでてくる『バオバブ』はここで見ることができます。展示室全体が涼しくなっている高山植物のコーナーではヒマラヤの青いケシ『メコノプシス』が咲いているのを一年中見ることができます。こ

春です。おでかけに季節は関係ない、とはいえ、やはり春のおでかけは長い冬の後だけに特別な感じがします。今回は、そんな気持ちをさらにパワーアップしてくれるスポットを紹介します。

のように珍しい植物、絶滅しそうな植物が同館に生育していることをツアーに参加して初めて知ることができました。また、身近にある果物でも『バナナ』や『パイナップル』がどんなふうにつくか案外知らないものです。ほんの1時間ほどで、植物に触れる世界旅行に行った気分を味わえます。

自然の中にいると心も体も癒されてきます。それだけではなく、今春はなんとオープン20周年。記念イベントが予定されていることもあり、春一番のおすすめスポットです。中でも『植物の進化と恐竜展』は大人も子どもと一緒に楽しめそうです。他にもいろいろイベントが予定されています(ホームページ等でチェックしてみてください!)ファミリーでなにわの春を満喫しませんか!? (写真・文 梅木智子)

GW・イベント時を除く毎日開催

11:00~、13:00~、15:00~(約1時間 6月下旬~9月上旬は30分)

[定員]先着20人(当日出発30分前より館内案内所で受付)

[費用]無料(入館料別)



オオオニバス



バオバブ



メコノプシス



パイナップル

20周年記念イベント

【費用】無料(入館料別)【申込】①

思い出の花博記念展示
~昔・今・未来 花のある生活~
4/1(木)~5/9(日)

植物の進化と恐竜展
4/29(祝)~5/5(祝)

咲くやこの花館 <http://www.sakuyakonohana.com/>

場所 〒538-0036

鶴見区緑地公園2-163

電話 6912-0055

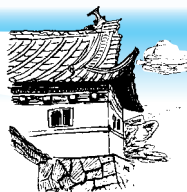
FAX 6913-8711

休館 月曜(祝日の場合はその翌日)

費用 高校生以上500円

中学生以下、障害者、市内在住の65歳以上は無料(要証明)

交通 地下鉄「鶴見緑地」



おおさか歴史探訪 ③③

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

桃の名所“桃山”



境内にある桃山跡の石碑



産湯稲荷神社社殿

弥生3月は桃の花が美しい季節です。今回は、大阪にあった桃の名所についてのお話です。現在の天王寺区小橋町、味原本町あたりに、大正8年まで、味原池(あじはらいけ)という池がありました。この池の南側に産湯稲荷神社という神社があります。かつてはここに産湯清水という名水が湧き出ている、大坂六清水のひとつに数えられていました。

この産湯稲荷神社の付近には大阪屈指の大桃林があり、俗に桃山と呼ばれていました。遊覧の地として庶民に親しまれていて、『浪華の賑ひ』という書物に、「このへんは一円桃畑にして、弥生の初旬、花のころは老若男女うち群れて野道に充滿する」と記されています。瓢箪片手に重箱弁当を携えて、「産湯へ、産湯へ」とおしかけたということです。このような情景は古い頃の話ではなく、明治末年までは毎年みられたということです。

ちなみに現在のJR環状線「桃谷」駅は明治28年の開設当初は「桃山」駅という名前でした。

